



三条鍛冶道場 × SUWADA OPEN FACTORY

職人しごとはおもしろい！

金属加工で有名な当地、燕三条ですが、中でも「**三条鍛冶道場**※」は伝統技術の体験ができる特別な施設です。地元の小学生もここで鍛冶の技を体験していますが、全国でも珍しい試みです。

※<http://www.ginzado.ne.jp/~avec/kajidojyo/>

普段何気なく使っている道具の一つひとつに生い立ちがあることを知り、物を大切に作る心も生まれるような気がします。そんな心を育むのにも SUWADA OPEN FACTORY の見学がその一助になれば光栄です。



職人の技を紹介(3)～研磨研削で美しいフォルムを作る



つめ切りに代表される弊社の刃物は、50～80の工程を経て完成します。その約半分を占めるのが「研磨・研削」作業。荒削りから仕上げ磨きまで、研磨資材と機械の組み合わせを変えながら少しずつ完成に近づけていきます。SUWADA が扱う材料は刃物に最適な特殊鋼で非常に硬いものです。切れ味のよい鋭利な刃になり長く使えるのが特長なのですが、その分、加工が難しい材料です。工程の難易度は様々で、若手職人はまず、修正ができる初期工程で作業姿勢や力加減を覚えて行きます。高速回転しているグラインダーなどの機械に、手を持って行かれてケガをしないようにするには十分な腕力も必要です。流れるような美しいフォルムをイメージしながら整えていく研磨作業は、文字通り研ぎ澄まされた感覚と、強い忍耐力が必要になります。



研削用ベルト

荒磨きから形状作りまで数十種類を使い分けます



研磨用バフ
仕上げ磨き用



鏡面仕上げ用布バフ
柔らかい布を回転させて
ピカピカに仕上げます



SUWADA つめ切りの最高峰「つめ切りミラー」は鏡面仕上げが特長で、「SUWADA の誇りとこだわりを映し出します。」とカタログに紹介されていますが、この仕上げはすべて手研磨によるものです。電解研磨法など新しい方法を用いれば表面上きれいに仕上げる事はできますが、残しておきたい大事なラインまですべて無くなってしまいます。そのために強弱剛柔と力の入れ具合にも細心の注意を払い、稜線のような美しいハイライト・ラインを残しながら磨き上げます。こうして、一つ一つ丁寧な作業の積み重ねで、完成へと近づけて行きます。

燕三条 工場(こうば)の祭典に参加します！

来る 10/2～6 に「燕三条 工場の祭典」が開催されます。当地域をあげての工場見学会で SUWADA では普段は入れない工場内部をご案内する「バックヤードツアー」などのスペシャルメニューをご用意して皆様のお越しをお待ちします！ ご期待ください！！

今後のイベント・出展情報

7/25～29 西武・池袋店様催事「Lifestyle at SEIBU」 つめ切りはもちろん、ダマスカスコレクションも販売します！

<この件に関するお問い合わせ>

(株) 諏訪田製作所 総務 小林 TEL: 0256-45-6111 e-mail: suwada@suwada.co.jp